

## 連続講座「国民国家と多文化社会」第7シリーズ

### 国民国家のはざまの南アジア

#### 第1回 11月21日 (金)

講師：小谷 汪之（東京都立大学人文学部）

「南アジアの多角的・重層的な地域構造」

コメンテータ：中村 忠男（立命館大学文学部）

川村 朋貴（立命館大学文学研究科）

司会者：西川 長夫（立命館大学国際関係学部）

#### 第2回 11月28日 (金)

講師：田中 雅一（京都大学人文科学研究所）

「越境するスリランカのタミル人」

コメンテータ：モンテ・カセム（立命館大学政策科学部）

中村 忠男

司会者：渡辺 公三（立命館大学文学部）

#### 第3回 12月5日 (金)

講師：松岡 環（シネマ・アジア代表）

「“南”のハリウッドの果たす役割—インド映画の諸相—」

コメンテータ：村山 和之（和光大学人文学部）

ソナリ・キステイ（立命館大学文学研究科）

司会者：中村 忠男（立命館大学文学部）

#### 第4回 12月12日 (金)

講師：白田 雅之（東海大学文学部）

「『国民国家』バングラデシュ統合の諸問題」

コメンテータ：遠藤絵理子（立命館大学国際関係研究科）

司会者：山口 幸二（立命館大学法学部）

場所：立命館大学アカデミア立命21 K209会議室

時間：16：30～18：30

## はじめに

立命館大学・国際言語文化研究所では、1994年秋から「ヨーロッパ統合」「多元主義カナダ」「ポストアパルトヘイトの南アフリカ」「オーストラリアの鏡・日本の鏡」「アジアにおける国民統合とエスニシティ」「国民国家とアジアの現代」の標題で連続講座「国民国家と多文化社会」を開催してきました。これらの講座は、これまで疑われることのなかった「国民国家」という社会の枠組みが、はたして21世紀へ向けて有効であり続けるのかという基本的な問いを問うています。

今回行われる第7シリーズでは、第6シリーズに引き続きアジアを取り上げ、南アジア地域に焦点をあて議論をより深めてゆくことにします。

古くから東西文化の交差点となってきた南アジア地域は、「多様なアジア」の縮図ともいえるほど、多種多様な文化、民族、宗教を内包しつつ、近代にいたって一元化を指向する西欧のそれとは異なる多元的な「国民国家」を形成してきました。しかし、その一方で南アジアは印パ両国の核武装や宗教的原理主義の台頭、過酷な民族紛争など、国民国家が抱える様々な矛盾を内包しており、現代における多様化と一元化の運動が激しくせめぎ合っている地域でもあります。

はたして南アジアの国々は近年欧米において語られる「多文化主義」とは別の独自のモデルをわたしたちに提供してくれるのでしょうか。それとも、こうした国々が抱えるエスニシティや宗教をめぐる紛争は、いやおうなく多元化するわたしたちの世界の未来を映しだしているのでしょうか。

また、南アジア系の移民は国民国家の枠組みを越えて世界中に拡散し、ホスト社会と出身社会とのはざまに、既存の文化的分断線に囚われない新たな混淆文化を形成しています。とりわけ、サブ・カルチャーの分野における南アジア文化の変容と拡散は新たなテクノロジーの助けを借りて急速に展開しています。

したがって、この連続講座では南アジア地域における国民国家形成のプロセスを歴史的に辿り直すと同時に、そのうねりのなかから産み出された、ポスト植民地時代における文化的アイデンティティーの複数性といった今日的な課題を考えてゆきます。